



一般質問

■多世代が共創できる「生涯現役のまち」構想  
七尾版CCRCの考えはあるか？

西川議員

七尾市は今後ますます高齢化率が高くなり、生産年齢人口の減少が予想される。こうした現状が招く地域力の低下は、市の財政難、社会保障費の増大、介護負担の増大などに繋がる。このピンチをチャンスととらえ、日本版CCRC構想（仕事をリタイヤした人が元気なうちに地方に移住して活動的に暮らし、介護や医療が必要になっても同所で継続的にケアを受けられる拠点施設）を七尾独自版で行う考えはないか。

不嶋市長

七尾市では、平成25年にハッピーリタイヤメント構想というものを打ち出し、提案された七尾版CCRCは、私どもが進めているこの範疇にしっかりと含まれており、実績も上がり、現在進行形であるものと理解していただきたい。日本版CCRCは、首都圏の高齢者問題への対応が根底にあり、高齢者を元気なうちに地方に送り出し、保育園がない、保育士がいらないといった待機児童問題のような轍を踏まぬようにとの思いで、国の政策誘導、狙いがそこにある。市の第2次総合計画において、七尾市でひと花もふた花も咲かせたい、頑張ってみようという元気な人材を世代にこだわらず、あらゆる方々を対象とした移住定住対策を盛り込んでいきたい。七尾市活性の戦力にしたいと思っている。



西川 英伸 議員  
(新国会)



先進事例であるシェア金沢(金沢市)

- 【その他の質問項目】
- 柔軟で多様な働き方改革
  - 七尾で活躍できる人材育成のための教育のあり方

一般質問

■公共施設の管理について

公共施設の有効な活用を！



永崎 陽 議員  
(新国会)



七尾市役所

永崎議員

公共施設等総合管理計画について、①現在使われていない公共施設の状況はどうなっているのか。②使われない施設のデータベースなどをすべて情報公開すべきではないか。③各公共施設の運営コストはどのように把握しているのか。④ハコモノについて、行政サービスをお金の損得だけで考えていいのか。⑤今後、修繕に必要な経費や撤去などの費用は、交付税頼りになると思うが、そういった財源確保の見通しは難しいと思うが見解はどうか。

白田総務部長

①利活用できる遊休施設は、有償貸付や売却し、活用できない施設は、優先順位をつけ、順次取り壊す。②固定資産台帳整備をし、その中で未利用地カルテを作成し、広く情報共有し、有効活用に繋げる。③費用対効果や事務の効率化を勘案しながら、遊休施設の活用や集約化により、サービスの提供や施設管理を行う。④利用者の利便性、市全体の住民福祉サービスに向ける予算バランスなども考慮したうえで適正に行われるべき。⑤全ての施設が交付税参入されているものではなく、標準的な施設に限って参入されている。施設の集約化や複合化に有利な地方債もあり、有利な財源を活用しながら施設の利活用を図っていく。

【その他の質問項目】

- 企業誘致対応
- 農業遺産活用
- 博物館活用等
- 環境状態

一般質問

■子育て支援について

子ども医療費の窓口無料化を！

議員議員

県内で子ども医療費の窓口無料化を実施していないのは、七尾市と志賀町だけ。若い子育て世代が他の自治体へ移住することを促進することになりかねない。早急に18歳までの子ども医療費の窓口無料化を実施すべきと思うが、その考えはあるのか。

不嶋市長

子ども医療費の助成対象年齢を18歳までに拡大することに検討していきたい。また、月額の自己負担1,000円をなくし全額助成することについても財源探しも含めて検討していきたい。窓口無料化については、実施しているほとんどの自治体において過剰受診なども一因だということも言われており、医療費の増大による新たな財源も必要になってくる。医療機関を受診される際に自己負担を一旦納めてもらい、そのことで子どもの健康について改めて気を配っていただきたいと思っており、窓口での無料化については、時期尚早と考えている。月額1,000円の助成と年齢の拡大を合わせて、約3,000万円程度の財源が必要になると試算もしている。この財源は、一つには事務事業の見直しも含めて、しっかりとその財源探しをしていきたい。

【その他の質問項目】

- 国民健康保険
- 個別所得補償制度
- 障害者医療
- 生活保護費



議員 和典 議員  
(無党派)

